

学修時間(予習復習)、 学修行動(出席率) 調査報告

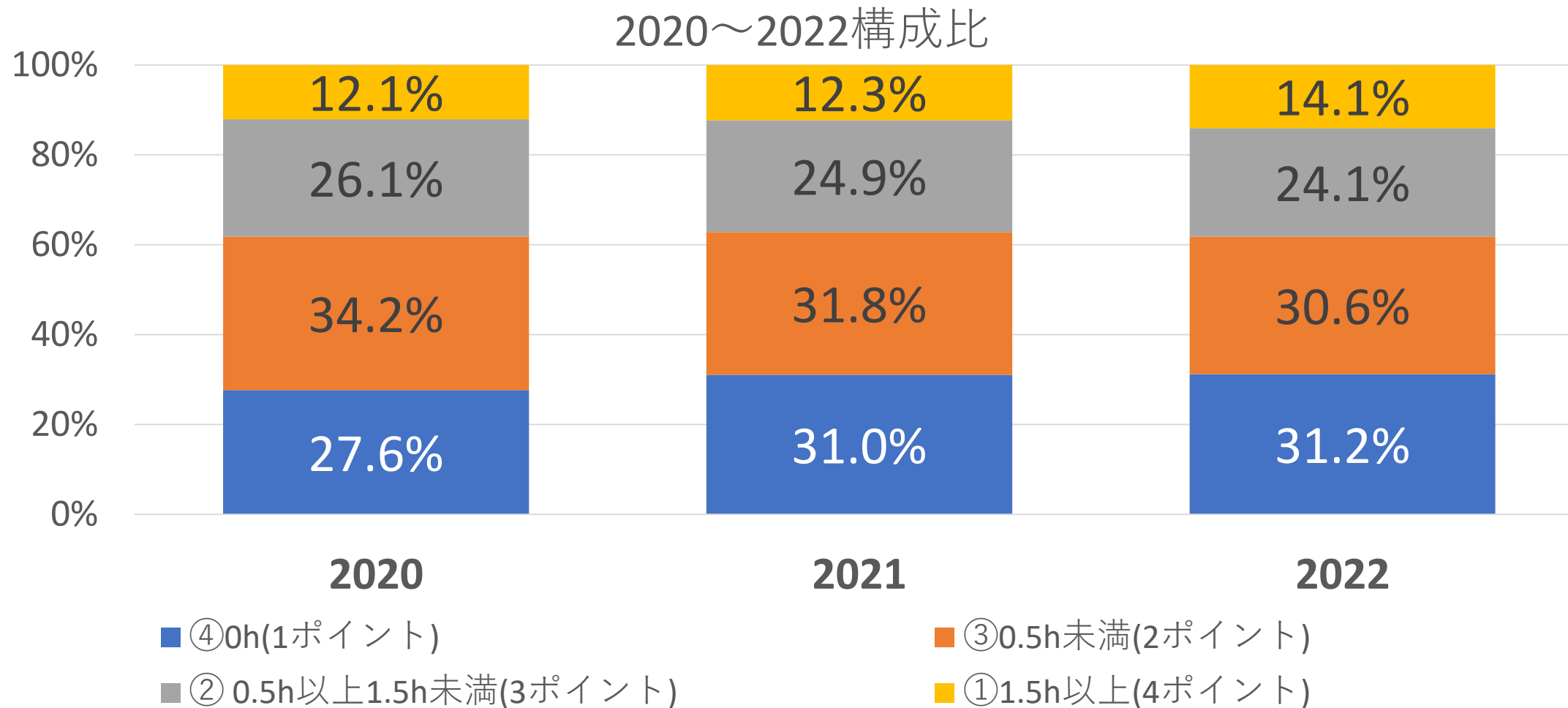
2023.9.27 IR室

学修時間(予習・復習)の調査について

- 2022年度授業評価アンケートの設問2
「あなたは、一週間にどの位、この授業の予習・復習をしましたか？」の回答を集計※
= 1科目あたりの授業時間外学修時間
- 回答・・・
 - ①1.5h以上(4点)、②0.5h以上1.5h未満(3点)、
 - ③0.5h未満(2点)、④0h(1点)

※前後期合計、回答数総計15,314件

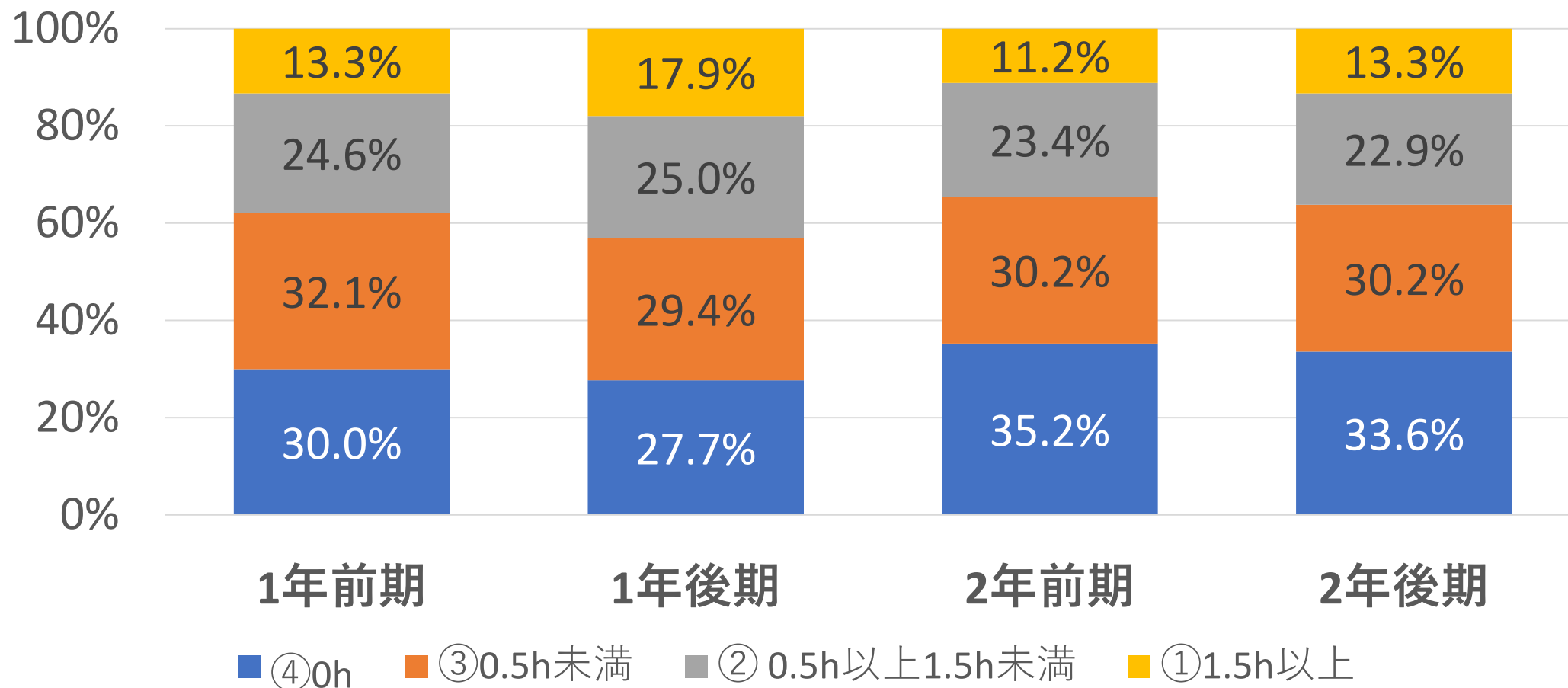
学修時間(予習・復習)調査結果



- 約30%の授業で「予習復習0h」、3年間で構成比に大きな変化なし

学修時間(予習・復習)調査結果

2022開講時期・構成比



- 平均して予習・復習時間が短いのは2年次前期

学修時間(予習・復習)調査結果

- 予習・復習の平均値が高かった科目(回答数10未満の科目は除く)

順位	平均値	区分	科目名
1	3.60	P	造形表現Ⅱ
2	3.50	B	C言語プログラミング
3	3.44	B	プロジェクト実践Ⅳ
4	3.40	B	ゼミナールⅠ(金澤ゼミ)
5	3.40	B	プロジェクトマネジメント
6	3.40	B	システム開発
7	3.40	B	情報セキュリティ
8	3.39	P	保育・教育課程論
9	3.38	LA	日本語コミュニケーション
10	3.36	P	造形表現

- 情報メディア系科目の平均値が高い

学修時間(予習・復習)調査結果

【相関関係の調査結果】

- 科目単位の予習・復習時間の平均値について、学年別・区分別に「GP(成績)平均値」及び「アンケート満足度平均値」との相関係数を調査したが、強い相関関係はみられなかった。

学修時間(予習・復習)調査結果

【まとめ 1/2】

- 全体としての傾向(構成比)は大きな変化はなし。
→30%程度の「科目」で予習・復習時間が「0」と回答
- 情報メディア系等、一部のコース科目には特徴がみられる。
(予習復習時間が平均して長い等)
→各学科でコースの特徴を把握し、学生の意欲と余力に留意しながら授業内容やカリキュラムを調整する等
- 2年次前期に平均値が下がる傾向がみられる。
→例えば就職活動等で、学生の意欲・余力が減少する時期には授業の進み方を調整する等
- GP(成績)、授業アンケート満足度との相関関係はない。
→予習復習に必要な時間には個人差がある

学修時間(予習・復習)調査結果

【まとめ 2/2】

- 現状の調査内容(授業単位のアンケート調査)では、学生個人の実態(予習・復習時間、どの程度負担に感じているか、予習・復習時間の長さは教員側の意図と合っているか等)は把握することができないため、今後より良い調査方法を検討したい。
- 一定のレベルに到達するために必要な予習・復習時間は個人によって異なる。今後、個人の成績状況や登録単位数との関連を調査することで、履修登録単位数(CAP制等)の適切性検証に活用することも検討したい。

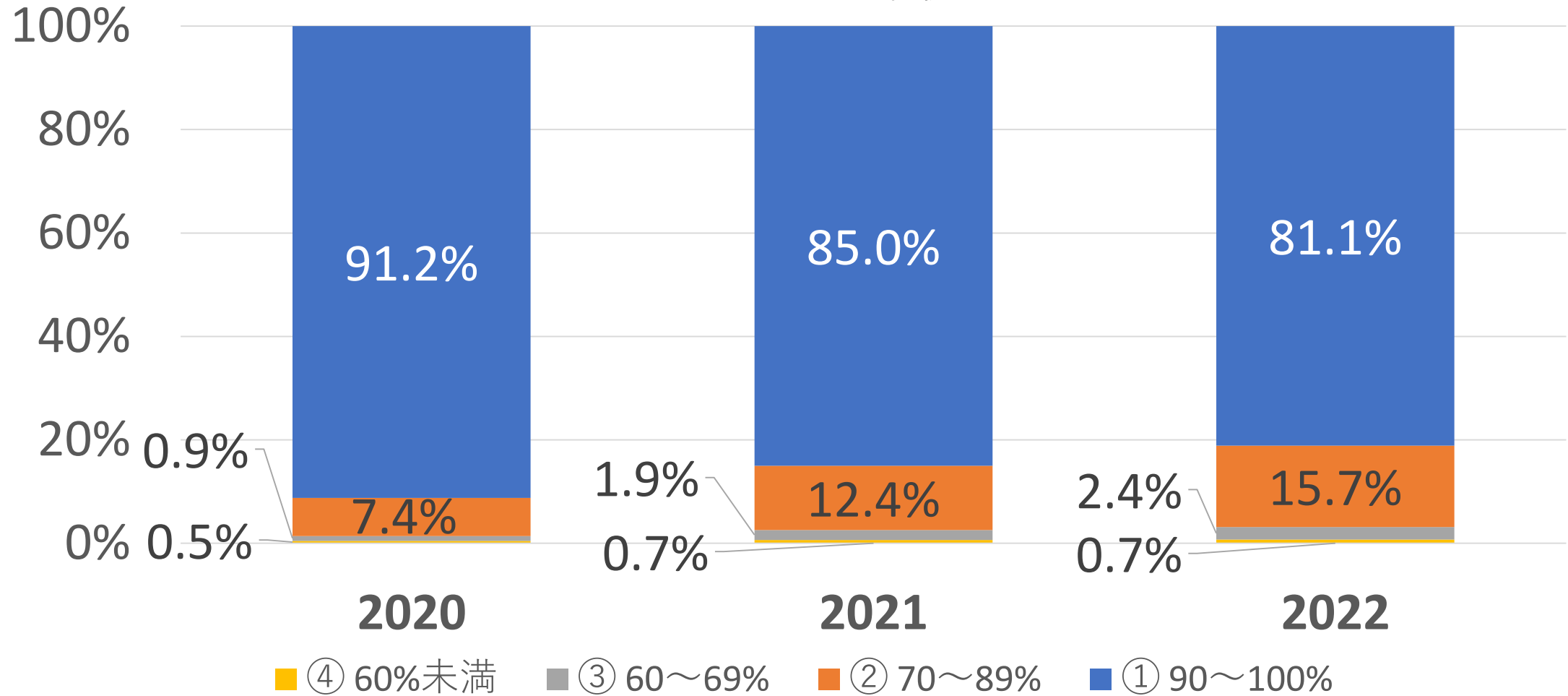
学修行動(出席率)の調査について

- 2022年度授業評価アンケートの設問2
「あなたは、この授業にどのくらい出席しましたか？」の回答を集計※=1科目についての出席率
- 回答…
 - ① 90～100%(4点)、② 70～89%(3点)、
 - ③ 60～69%(2点)、④ 60%未満(1点)

※前後期合計、回答数総計15,314件

学修行動(出席率)の調査について

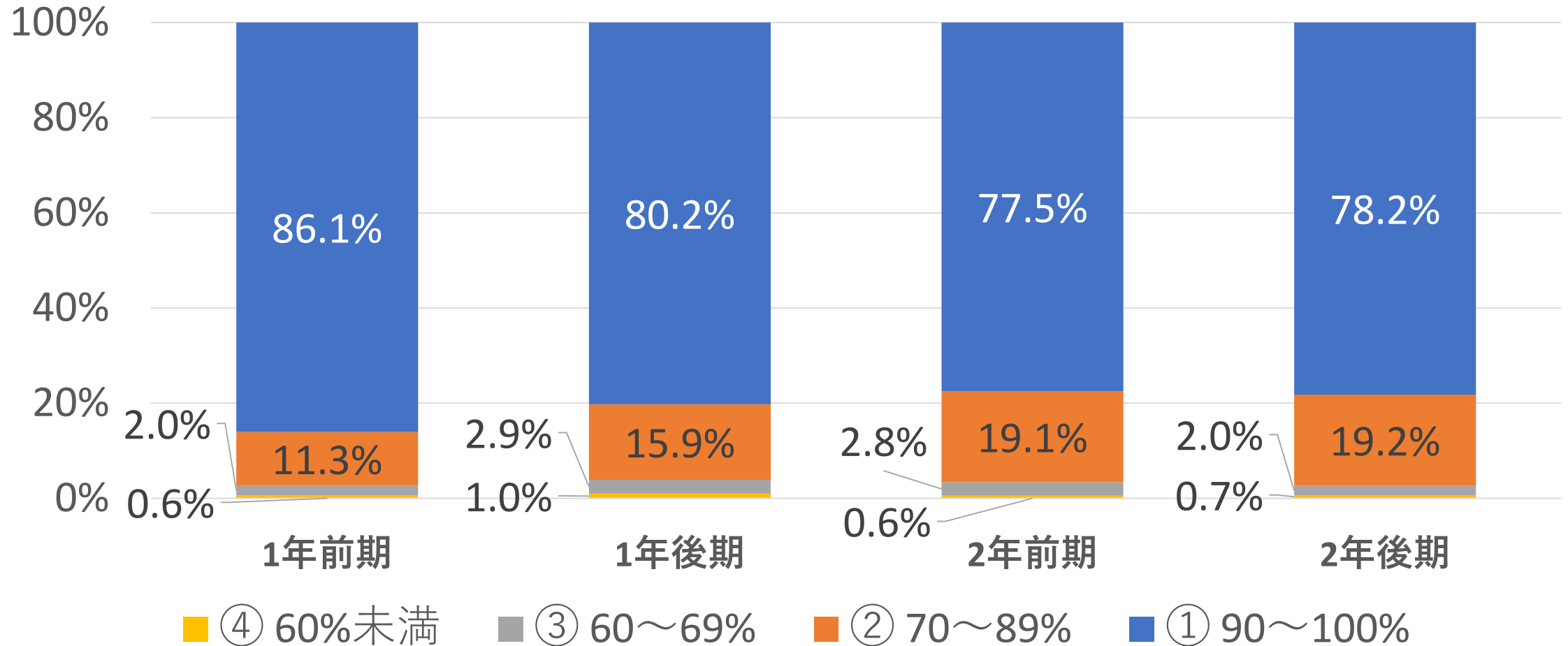
2020～2022出席状況



- 全体として出席数の平均はやや下がる傾向

学修行動(出席率)の調査について

開講時期・構成比



• 2年次になると出席率は低下

学修行動(出席率)の調査について

【相関関係の調査結果】

- 科目単位の出席率の平均値について、学年別・区分別に「GP(成績)平均値」及び「アンケート満足度平均値」との相関係数を調査した。
学科・区分によっても異なるが、1年次はGP・満足度ともに正の相関が見られ、2年次では相関関係はあまり見られなかった。

学修行動(出席率)の調査結果について

【まとめ】

- 出席率と成績・満足度は正の相関関係※にある場合が多い
(※因果関係ではない)
- 出席率が低い科目については「なぜ学生は欠席するのか」調査・分析を(別途データを提供予定)
- なるべく欠席しないよう繰り返し意識づけ等の対策を
 - アンケート結果によるものなので、コロナ関連欠席の影響は不明

EOF